

## 「大路川流域治水ビジョン」を策定しました!

大路川流域では、令和3年5月に「大路川流域治水協議会」を設立し、各地区の流域関係者で意見交換し、ハード・ソフト双方の対策を総合的に検討してきました。令和6年3月、「これまでの成果」と「目指す姿(これからの取り組み)」をとりまとめ、関係者全員で共有することで「みんなで」同じ方向を向き、流域治水のさらなる推進を図るため、「大路川流域治水ビジョン」を策定しました。

本ビジョンは県河川課ホームページにて公表しており、製本版も流域内の各地区公民館・県庁・県東部庁舎で配布していますので、是非ご覧ください!

## 「大路川流域治水ビジョン」の概要

### ビジョンの概要

#### 【掲載内容】

- ①概要  
協議会の概要、大路川流域治水ビジョンの概要  
協議会での意見交換の経緯
- ②大路川流域の概要、成り立ち  
大路川流域の概要、歴史、変遷、土地の利用状況
- ③治水上の課題(リスク)  
主要洪水の被害状況
- ④流域治水の必要性  
気候変動等による災害激甚化  
地域のみんで取り組む「流域治水」
- ⑤これまでの取組内容  
河川整備計画、ハード対策の進捗状況と限界  
ソフト対策の推進  
適切な維持管理の実施  
流域全体で連携した取組、広報  
田んぼダム・雨水貯留タンクの取組拡大において
- ⑥流域治水の取組の効果(浸水想定シミュレーション)
- ⑦これから目指す姿(ビジョン)

#### 【ビジョン策定の目的】

- ・取組の**可視化**
- ・目指す姿の**共有**
- ・取組の**継続化**

#### 【ホームページ掲載先】

詳しくはこちらをご覧ください。  
製本版は各公民館等にあります。



## 大路川 流域治水 ビジョン

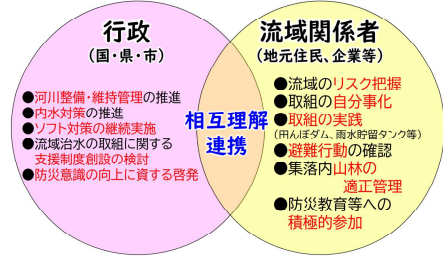
～地域のみんで取り組む「流域治水」～



令和6年3月  
大路川流域治水協議会

### これから目指す姿(メッセージ、ビジョン)

- 河川整備を含め、これまで蓄積されたノウハウ(田んぼダム、浸水深表示板設置、防災教育、雨水貯留タンクの設置等)や適用可能な**支援制度の活用**により、「**浸水被害軽減**」「**防災意識の向上**」「**流域関係者の相互理解、連携**」等の**これまでの取組の効果が着実に現れています**。
- 今後の水害発生に備え、**安全・安心な地域づくり**を実現するため、これらの**取組を継続的に実施**しつつ、**流域のあらゆる関係者が同じ方向を向き、もう一歩ずつ取組を前に進める**ことが重要です。
- まずは、関係者全員が「**自分事**」として**問題を捉え**、それぞれの立場を尊重して**自分のできることから少しずつ着実に実施**していきましょう。



### 流域治水の必要性(目的)

- 流域全体(河川区域、集水域、氾濫域)で対策を総動員し、
- ①豪雨時に雨水を貯留すること等により、**避難する時間を少しでも稼ぐ**。
  - ②取組全体を通して、**住民の確実な避難行動に結びつける**。



【流域治水ロゴマーク】  
一人でも多くの方々に「流域治水」への理解や親しみをもっていただくことを目的に、国土交通省が作成した流域治水のシンボルとなるロゴマークです。



詳しくはこちらをご覧ください  
(国土交通省HP)



# 令和5年度「意見交換会」「大路川流域治水協議会」の開催状況

各地区の皆様、ご出席ありがとうございました。  
今後ともよろしく願いたします。

## (1) 各地区との意見交換会(令和5年12月14日～令和6年2月20日)

### 【開催状況】

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	参加人数 合計
地区名	美保南	倉田 (旧役員)	米里	面影	美保	津ノ井	若葉台	国府	倉田 (新役員)	
実施日	R5.12.14	R5.12.27	R6.1.16	R6.1.19	R6.1.22	R6.1.23	R6.1.27	R6.1.30	R6.2.20	80名

### 【主な内容】

- 雨水貯留対策の実施効果(浸水想定シミュレーション結果) ⇒シミュレーション結果の詳細はビジョンをご覧ください。
- 今後の流域治水取組の方向性
- 意見交換

### 【意見交換会でいただいた主な意見】

- 流域治水の取組(雨水貯留対策)を反映したシミュレーションの結果について理解できた。
- 「田んぼダム」の堰板展示や農業団体への説明等により農家の方の理解促進に努めるべき。
- 「田んぼダム」は、豪雨時に堰板調整が困難なので、結果として一面が水没して効果がないのでは。
- 耕作放棄地を「田んぼダム」として活用すれば効果があるのではないか。
- 「田んぼダム」に係る交付金事務の事務の簡素化をしてほしい。
- 「雨水貯留タンク」に係る補助等の支援制度を創設してほしい。
- 山の保水力は治水効果にもつながるので、山林の管理も徹底するよう行政も取り組むべき。
- ビジョンには避難場所提供等を含めて「各地区ができる取組」を記載してほしい。
- 千代川、大路川の河道掘削を推進すべき。

## (2) 第3回大路川流域治水協議会(令和6年3月12日)

### 【開催状況】

<日時> 令和6年3月12日 18:30～

<場所> 美保南地区公民館

<参加者> 大路川流域8地区代表者 計31名、行政関係者(鳥取県、鳥取市)

### 【主な内容】

- これまでの協議会、意見交換会開催経緯、主な意見
- 大路川流域治水ビジョン案
- 意見交換

### 【協議会でいただいた主な意見】

- 雨水貯留タンク設置等に係る行政支援(助成制度)をしっかり検討してほしい。
- ビジョン策定後も防災学習や協議会等を継続させ、周知を行うべき。
- ビジョンについては、他流域でも活用するよう全県展開を行うべき。
- 流域関係者(住民、農家、企業等)の取組内容を立場に応じて細分化したほうがよい。
- 山林の保水力維持のための適正管理についてもビジョンに追加すべき。

## 今後(令和6年度)の予定

- ① 雨水貯留タンクの試行設置の拡大(美保南小学校、なごみ苑への設置を調整中)
- ② 「大路川流域治水ビジョン」の周知(防災学習、各種会議での説明)
- ③ 各地区の意見交換会、協議会の継続開催  
⇒開催時期は別途調整しますので、ご出席をよろしく願いたします。
- ④ 流域治水に関する各種会議においてビジョンを共有し、流域治水の取組を全県へ展開
- ⑤ 令和6年度の取組状況を反映してビジョンのバージョンアップ
- ⑥ 大路川流域治水通信の定期発行  
⇒令和6年度は取組の成果等を定期的に紹介予定